

限界集落

過疎化などで人口の50%以上が65歳以上の高齢者になって冠婚葬祭など社会的共同生活の維持が困難になっている集落を指す。

集落の自治機能の衰え～就業児童・未成年者の存在がなく独居老人とその予備軍多くの病身者で消滅に向かう。

限界自治体の最も近い例として「財政再建団体となった北海道夕張市」は市が消滅するという切迫した課題

準限界集落（55歳以上の人口比率50%超）

限界集落を超えると「超限界集落」更に「消滅集落」へと向かう

農水産省の調査（2005年） 無住化危惧集落＝1,403

国交省の調査（2006年～2008年8月最終報告）

過疎地域を抱える全国775市町村の内	62,273集落の状況
65歳以上の高齢者	7,878集落(12,7%)
機能維持困難	2,917集落(4,7%)
10年以内に消滅の可能性423集落	いずれ消滅2,220集落
	＝2,643集落

都市部の類似現象

東京都新宿区の戸山団地（大規模公営団地）

高齢者の入居集中、生活困難化による孤独死～共同体の崩壊・・・

限界集落の再生

事業化（宿泊・カフェ・レストラン・コミュニティ施設）

～成功事例～

篠山市「集落丸山」2009年に取り組み開始、

僅か3年で見違える程再生、住民自らが主体となって民宿を経営

～NPO法人化して運営、地域を活性化して若者を増やす取り組み